

春の光に包まれて、園にもまた新しい一年がめぐってきました。
園庭であそぶ子どもたちの表情も、少しずつ頼もしく見えてきます。
新しいクラス、新しい友だち、初めての環境に、期待と少しの不安を抱えながらも、それぞれが自分のペースで歩き始めているようです。

新年度2日目のある場面を記録したラーニングストーリーに、心を動かされました。

(2025.4.2 きらきらラーニングストーリー「言葉はなくとも」要約)

つい最近まで、お兄ちゃんの背中に隠れるようにしていた、照れ屋のGくん。
そのお兄ちゃんは3月いっぱい卒園し、春からはいません。
姿が見えなくなったことに、不安やさみしさを感じているのではないかと気にかけていたところ、
新年度が始まった2日目の昼食の時間。

Gくんの隣で食事をしていたMちゃんが、急に「ママがよくなった」と言いながら涙を流しはじめました。Gくんは何も言わずに、Mちゃんの頭をやさしくなでてあげたそうです。

それでも、Mちゃんの間からは涙がポロポロ。

するとGくんは、すっとタオルを手に取り、Mちゃんの涙をそっとぬぐい、今度は背中をやさしくポンポンとたたいていました。

言葉はなくても、その手が伝えていたのは ——

「だいじょうぶ だいじょうぶ」

そんな気持ちだったのかもしれない。

写真付きのこの記録を見て、思わず胸が熱くなりました。

きっとGくんは、自分も寂しい気持ちを知っているからこそ、Mちゃんの心に寄り添えたのでしょう。経験が、優しさに変わる。そんな瞬間を、私たちもそばで見守らせてもらいました。

春は、出会いと別れが交差する季節。

少しの戸惑いと、少しの勇気を胸に、それぞれの歩幅で進んでいく子どもたちを、私たちも丁寧に見守っていきたいと思います。

本年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

子どもたちにとって、そしてご家庭にとって、心から安心できる居場所となりますように。

